

時間割コード	G2B45617	開講年度	2026				
授業題目	スポーツ社会学ゼミ					担当教員	木村 宏人
英文授業名	Seminar in Sociology of Sports						
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・1時限	対象学生	全
講義室	共通教育 5 4 講義室			授業形態	演習	遠隔授業科目	
備考							
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					⇔	【授業の達成目標】
	大学DP						
	的確に情報を収集し、理解し、発信する力					⇔	スポーツという身近な文化事象を通して、現代社会が抱える課題（グローバリゼーション、ジェンダー、地域社会等）について社会学的な観点から理解し、説明できるようになる。文献講読や議論を通じて、自らの考えを論理的に構成し、他者に的確に伝える能力と文章表現力を身につける。
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	教科書を読み進めながら、スポーツを単なる身体活動としてだけでなく、社会との関連で生じる現象として捉え直す演習を行う。各回、担当者によるレジュメ報告と全員でのディスカッションを行う形式で進める。受講生は、スポーツに関連する具体的な事象（地域づくり、ナショナリズム、身体性など）について考察し、多様な視点から現代社会を読み解く視座を養う。 ※シラバス執筆時点では未定だが、調整が可能であれば授業の2回分程度を利用し、信州のスポーツ現場へ出向くフィールドワークを実施する。その場合、授業時間外の活動が必要になることや文献講読のスケジュールが変更になることがある。詳しくは初回授業時に通達する。						
(5)授業のキーワード	スポーツ社会学，ジェンダー，メディア，地域社会，フィールドワーク，グループワーク，レポートのフィードバック						
(6)授業計画	・ 第1回：ガイダンス（授業の進め方、担当決め）、序章「スポーツでどう社会学する？」 ・ 第2回：第1章 スポーツは世界をつなぐと同時に分断する？（グローバリゼーション） ・ 第3回：第2章 スポーツができる人は男らしい？（ジェンダー） ・ 第4回：第3章 ソーシャルメディアがスポーツを変える？（メディア） ・ 第5回：第4章 スポーツって地域づくりに役立つの？（観光と持続可能な開発） ・ 第6回：第5章 スポーツ用具の作り手になるとはどういうことか？（自然環境と遊び） ・ 第7回：第6章 どうして、私たちはスポーツをするのだろうか？（地域社会） ・ 第8回：第7章 「JAPANESE ONLY」はどこから来たか？（ポストコロニアリズム／ナショナリズム） ・ 第9回：第8章 オリンピックは世界を一つにする？（メガ・イベントと都市開発） ・ 第10回：第9章 データがスポーツを変えた？（データ革命） ・ 第11回：第10章 ひとり親だとスポーツ少年団に入れない？（家族と教育） ・ 第12回：第11章 トランスジェンダーのスポーツ参加は不公平？（LGBTQ） ・ 第13回：第12章 盲ろうの柔道家はいかにして「わざ」を覚えるのか？（身体化） ・ 第14回：第13章 健全な肉体に健全な精神は宿らない？（健康） ・ 第15回：第14章 スポーツ選手は和解のシンボルか？（先住民・先住民族）、結章「スポーツを考える」、授業アンケートの実施						
(7)成績評価の方法	レジュメ作成：25％ 議論への参加貢献度：25％ 期末レポート：50％ 評価した合計が60～69％なら「可」、70～79％なら「良」、80～89％なら「優」、90～100％なら「秀」とする。 ※レジュメのやレポートの作成において、生成AIの不適切な利用が判明した時は「不可」とすることがある。						
(8)成績評価の基準	レジュメ：形式を守って指定された文献の要点を的確にまとめ、意義のある論点を提示できているか。 議論：積極的に議論に参加し、論理的な意見表明と対話ができているか。 レポート：形式を守るとともに、根拠をもとに論証できているか。						
(9)事前事後学習の内容	事前学習（約2時間）：次回扱う章を熟読し、専門用語の意味を調べ、疑問点や自分の意見を整理しておく。担当者はレジュメを作成する。 事後学習（約2時間）：授業での議論を踏まえて内容を振り返り、関心を持ったテーマについて参考文献等でさらに探求する。						
(10)履修上の注意	受講者同士の活発な議論を期待する。また文献の事前講読は必須である。 （学外でのフィールドワークを行うことがあるため、『学生教育研究災害傷害保険（学研災）』及び『学研災付帯賠償責任保険（学研賠）』への加入を履修の条件とします。）						
(11)質問、相談への対応	簡単なものであれば授業前後に教室にて受け付ける。メールやオフィスアワーにおいても受け付ける。 メールアドレスは初回授業時に提示する。						
(12)授業への出席	全ての回に出席することを基本とします。「信州大学における授業の出席に関する要項」第4に規定する公欠等を除き、正当な理由のない欠席が続く場合は単位認定を行わない場合があります。						

(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「学修の補充の対象とする事由」により欠席した場合は、当該回の授業内容に関連するレポート課題を課すことで補充を行うことがあります。
【教科書】	石岡丈昇（編），スポーツで社会学する，初版，ISBN 978-4-641-17501-3，有斐閣，2025年，2,640円
【参考書】	授業内で適宜紹介する。